

## 平成28年度 決算概要

## 1. 連結決算概要（経営成績）

（単位：億円（単位未満切捨て））

区 分	平成27年度 決算 A	平成28年度 決算 B	対前年増減額・率		平成29年度 計画 ※
			B-A	(%)	
<b>営業収益</b>	10,771	10,345	△426	△3.9%	19,279
<b>高速道路事業</b>	10,105	9,545	△560	△5.5%	17,982
(料金収入)	8,064	8,225	161	2.0%	7,431
(道路資産完成高)	1,958	1,229	△728	△37.2%	10,478
(その他の営業収益)	82	89	6	8.3%	73
<b>関連事業</b>	720	862	141	19.6%	1,364
(SA・PA事業)	430	420	△9	△2.2%	424
(受託・その他の事業)	290	441	151	52.1%	939
セグメント間取引の消去	△54	△62	△7	-	△67
<b>営業費用</b>	10,612	10,155	△457	△4.3%	19,209
<b>高速道路事業</b>	9,972	9,373	△598	△5.9%	17,938
(道路資産賃借料)	5,818	5,797	△20	△0.3%	4,933
(道路資産完成原価)	1,958	1,229	△728	△37.2%	10,478
(管理費用等)	2,195	2,345	150	6.8%	2,526
<b>関連事業</b>	695	843	148	21.3%	1,338
(SA・PA事業)	402	399	△3	△0.8%	396
(受託・その他の事業)	292	444	151	51.7%	941
セグメント間取引の消去	△55	△62	△6	-	△67
<b>営業利益</b>	159	190	30	19.2%	69
<b>高速道路事業</b>	133	171	37	28.3%	44
<b>関連事業</b>	25	18	△6	△25.7%	25
<b>経常利益</b>	203	220	17	8.6%	72
<b>親会社株主に帰属する当期純利益</b>	142	242	100	70.3%	246

※) 平成29年度計画は、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいており、多分に不確定な要素を含んでいます。実際の業績は様々な要素により、上記の計画と異なる可能性があることをご承知おき下さい。

(注) 当社グループの事業区分及びその主要内容は、以下のとおりです。

事業区分	主要内容
高速道路事業	高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の管理等
関連事業	SA・PA事業 高速道路の休憩所、給油所等の建設、管理等
	受託事業 国、地方公共団体等の委託に基づく道路の新設、改築、維持、修繕等、その他委託に基づく事業等
	その他の事業 駐車場事業、トラックターミナル事業等

## 2. 連結営業概況

### (1) 高速道路事業の営業状況

- 高速道路事業の営業収益は、前年度比560億円減の9,545億円となりました。  
圏央道の開通<sup>※1</sup>による交通量の増加等により、通行台数は前年度比2.2%増の286万台/日となり、料金収入は前年度比161億円増の8,225億円となりました。  
道路資産完成高については、圏央道(境古河IC~つくば中央IC)の新規開通などがありましたが、前年度比728億円減の1,229億円となりました。

※1)平成27年度開通区間 圏央道 神崎IC~大栄JCT 9.7km、圏央道 桶川北本IC~白岡菫蒲IC 10.8km  
平成28年度開通区間 圏央道 境古河IC~つくば中央IC 28.5km

- 高速道路事業の営業費用は、前年度比598億円減の9,373億円となりました。  
営業費用のうち、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構(以下「高速道路機構」といいます。)に対する道路資産賃借料は、前年度比20億円減の5,797億円となりました。  
道路資産完成原価については、道路資産完成高と同額を計上しています。  
また、管理費用等については、新規開通による管理費用や倒木対策、雪氷対策費用の増などにより、前年度比150億円増の2,345億円となりました。
- この結果、高速道路事業営業利益は、171億円(前年度は133億円の営業利益)となりました。

### (2) 関連事業の営業状況

- SA・PAの店舗売上高は、1,413億円となり前年度比0.3%増加しました。そのうち飲食・物販店舗売上高は、上半期の天候不順等の影響を受けたことから1,032億円となり、0.9%減少しました。
- このためSA・PA事業営業収益は前年度比9億円減の420億円となりました。また、営業費用は店舗売上高が減となったことなどにより売上原価が減少したため、前年度比3億円減の399億円となりました。
- この結果、SA・PA事業営業利益は前年度比6億円減の21億円となりました。また、関連事業全体の営業利益は、前年度比6億円減の18億円となりました。

### (3) 当期純利益

- 親会社株主に帰属する当期純利益は前年比100億円増となる242億円となりました。
- これは、建設関係法人厚生年金基金について、平成29年度に代行部分の過去分返上を行うことで特別利益約281億円<sup>※2</sup>が発生することから、これに係る税効果分として86億円を法人税等調整額として計上したことによるものです。

※2)見込値、最終確定値は変更となる可能性があります。

## 【参考】

## 個別決算概要（経営成績）

（単位：億円（単位未満切捨て））

区 分	平成27年度 決算 A	平成28年度 決算 B	対前年増減額・率	
			B-A	(%)
<b>営業収益</b>	10,417	10,011	△ 405	△3.8%
<b>高速道路事業</b>	10,033	9,467	△ 565	△5.6%
(料金収入)	8,064	8,225	161	1.9%
(道路資産完成高)	1,958	1,229	△ 728	△37.2%
(その他の売上高)	9	11	1	15.6%
<b>関連事業</b>	384	543	159	41.6%
(SA・PA事業)	97	105	8	8.8%
(受託・その他の事業)	286	438	151	52.7%
<b>営業費用</b>	10,322	9,879	△ 443	△4.2%
<b>高速道路事業</b>	9,940	9,345	△ 595	△5.9%
(道路資産賃借料)	5,818	5,797	△ 20	△0.3%
(道路資産完成原価)	1,958	1,229	△ 728	△37.2%
(管理費用)	2,164	2,317	153	7.0%
<b>関連事業</b>	381	533	152	39.9%
(SA・PA事業)	91	93	1	1.4%
(受託・その他の事業)	289	440	151	52.1%
<b>営業利益</b>	94	132	37	39.3%
<b>高速道路事業</b>	92	122	29	32.4%
<b>関連事業</b>	2	10	7	280.7%
<b>経常利益</b>	148	171	23	15.6%
<b>当期純利益</b>	112	205	93	83.5%

## ■トピックス(平成28年度の主な取り組み)

### 【高速道路事業】

#### ■ネットワーク整備(新規開通)

首都圏中央連絡自動車道(圏央道) 境古河(さかいこが)IC～つくば中央IC間(28.5km)が平成29年2月26日に開通しました。この開通により圏央道の茨城県区間が全線開通し、東名高速から東関東道までの6つの放射道路がつながりました。また、この開通では我が国で初めて高速道路ナンバリング標識を設置しました。



坂東(ばんどう)IC



境古河IC～つくば中央IC 開通式

#### ■ネットワーク整備(整備推進)

国土交通省及び中日本高速道路株式会社と事業を進めている東京外かく環状道路(関越～東名:16.2km)において、平成29年2月19日に本線トンネルのシールドマシン発進式を執り行い、東名ジャンクションより北側に向かってシールドマシンが発進しました。



シールドマシン



シールドマシン発進式

#### ■高速道路リニューアルプロジェクト(機能の向上と長寿命化)

長野自動車道安曇野(あづみの)IC～麻績(おみ)IC(上下線)における老朽化した橋りょうの対策工事等、平成28年度からリニューアルプロジェクトを本格的に展開しました。



高速道路リニューアルプロジェクト(長野自動車道 小仁熊橋(おにくまばし)大規模橋りょう補修工事)

## ■渋滞対策(付加車線の整備)

京葉道路穴川(中)IC～貝塚IC間で進めてきた渋滞対策(付加車線事業)が完成し、平成28年6月から運用を開始しました。これにより渋滞発生回数が大幅に減少するなどの効果が見られます。



運用前(平成23年7月撮影)



運用後(平成28年6月1日撮影)

## ■地域社会への貢献

台風10号により北海道東地方を中心に国道や鉄道など大きな被害を受けましたが、災害通行止めとなった道東自動車道においては、復旧着手から24時間で開通させ、道東地方の交通の確保・復旧に大きく貢献しました。



被災状況(道東道 狩勝第二トンネル)



応急復旧による通行止め解除

## 【関連事業】

### ■SA・PA商業施設のオープン、新ブランドの展開

関越自動車道 上里SA(上り線)の商業施設を、地域性・旅の楽しみを凝縮した旅のドラマを演出する「ドラマチックエリア」として、平成28年4月27日にリニューアルオープンしました。

また、より一層のサービス向上を目指し、SA・PAの新ブランドとして、気軽に「休もっか」とお立ち寄りいただけるいつもの「ホッと」があるお店「YASMOCCA(ヤスマッカ)」の展開を、平成28年7月1日に開始しました。



関越道 上里SA(上り線) ドラマチックエリア



東北道 安積PA(上り線)YASMOCCA